

◎講演演題

「ゾウの時間・ネズミの時間・私の時間」

◎講演要旨

時計で計るものだけが時間ではない。動物により、時間の早さが違う。ネズミの時間はゾウの時間より、ずっと早い。エネルギーを使えば使うほど時間が早く流れるのが生物の時間である。そのような時間の見方をもって、われわれの社会生活の時間を眺めると、やはり、時間はエネルギーを使うと速く進むと言えそうである。3.11以降、エネルギー問題が切実になっているが、じつはエネルギー問題は時間の問題と関わっているのだ—そう私は主張したい。現代の大問題であるエネルギー問題、環境問題、少子高齢化の問題についても、生物学的時間という視点から考えてみる。科学とは自然の見方である。見方を変えれば、世界がまったく違って見えてくるし、現代社会の問題点がどこにあるかもはっきりしてくる。科学と社会の接点についてもかんがえてみたい。

◎プロフィール

本川 達雄 (もとかわ たつお)

東京工業大学東京工業大学 大学院生命理工学研究科 教授

1948年 仙台に生まれる

東京大学理学部生物学科(動物学)卒(1971)

東京大学助手、琉球大学助教授を経て1991年より東京工業大学教授

専門は生物学。棘皮(きょくひ)動物(ナマコ、ウニ、ヒトデ、ウミユリ)の硬さの変わる皮の研究をしている。

科学とは自然の見方、つまり世界観を与えるものだという考えのもとに、生物学的世界観を分かりやすく説く著書を執筆している。とくに生物学から時間について考えた「ゾウの時間ネズミの時間」(中公新書、講談社出版文化賞)はベストセラー

となった。他に、「サンゴとサンゴ礁のはなし」(中公新書)、「生物学的文明論」(新潮新書)など。

高校の生物教科書(啓林館)の著者でもあり、参考書もある(チャート式)。理科教育も分かりやすく親しみやすいものにしようという考えから、生物学の歌をつくっており、歌う生物学者としても知られている。CDに「ゾウの時間ネズミの時間ー歌う生物学 日本コロムビア」や、全70曲入りCD三枚付きの高校生物の参考書「歌う生物学必修編」(阪急コミュニケーションズ)をリリースした。